

28 元明鍼灸書における鍼灸歌賦の書物別採録数について

河内 輝美

日本鍼灸研究会

鍼灸歌賦(歌賦)は、宋から明にかけて数多く作られた、鍼灸をテーマとする韻文形式の文章である。現在、鍼灸歌賦を集めた書物は多数刊行されているが、総数やその系統、分類など、歌賦の全体像が明確になっているとは言い難い。

演者は、昨年116回本学会学術大会において、元明鍼灸書13種を対象として、各書の鍼灸歌賦の採録数について報告を行った。その結果は、A『子午流注鍼経』3種、B『鍼経指南』2種、C『扁鵲神応鍼灸玉龍経』9種、D『十四経発揮』14種、E『鍼灸神書』(『瓊瑤神書』)5種、F『鍼灸大全』36種、G『鍼灸聚英』59種、H『鍼灸問対』11種、I『楊敬齋鍼灸全書』35種、J『鍼灸大成』96種、K『経絡考』28種、L『鍼方六集』38種、M『類経図翼』48種であった。すなわち鍼灸歌賦の総数は384種で、最も採録数が多い鍼灸書はJ『鍼灸大成』とG『鍼灸聚英』であった。歌賦の側から見た採録数では、「標幽賦(標由賦)」が7種、次いで「通玄指要賦」と「流注指微賦」が6種の鍼灸書に収められていた。以上の調査結果に基づき、今回は以下の条件で調査を行った。

①最も採録数の多い『鍼灸大成』の歌賦を基準に比較を行い、同名の歌賦数を調べ順位付けをする。②ただし、同名もしくは名称が類似する歌賦でも、記載内容が明らかに異なるものは省く。③名称は異なるが、内容が概ね一致するものは採用する。④『十四経発揮』所載の経絡の流注歌・分寸歌のように、整理の必要な歌賦は対象外とする。

調査結果は以下の通りである。

【1】書物別採録数

A: 3, B: 2, C: 5, F: 35, G: 31, H: 8, I: 31, J: 40, L: 15, M: 5

【2】同名もしくは類似する歌賦

1. <7種>「(針経・注解)標幽賦(標由賦)」(B, C, F, G, I, J, L)
2. <6種>「(流注)通玄指要賦」(B, G, I, J, L), 「(流注)流注指微賦」(A, F, G, I, J, L), 「馬丹陽天星十二穴歌(治雜病歌)」(C, F, G, I, J, L), 「禁針穴歌」, 「禁灸穴歌」(F, G, H, I, J, M)
3. <5種>「席弘賦」, 「(梓岐風谷飛経撮要・梓岐風谷飛経走気撮要)金針賦」, 「靈光賦」(F, G, I, J, L), 「太乙歌(大乙人神歌)」(F, G, I, J, M), 「十二経納天干歌」, 「八脈交会八穴歌」, 「十五絡脈歌」(F, G, H, I, J), 「(孫思邈先生・千金翼)孫真人針十三鬼穴歌」(F, G, I, J, L)
4. <4種>「十二経脈歌」, 「逐月血忌歌」, 「十二経之原歌」(F, G, I, J), 「四総穴歌」(F, G, J, L), 「井榮兪原経合歌」(A, F, H, J), 「奇経八脈歌」(G, H, J, M)「経穴起止歌」(F, H, I, J), 「九神尻神歌」(C, F, G, I)
5. <3種>「周身経穴賦」, 「長桑君天星秘訣歌」, 「十二経納地支歌」, 「八脈配八卦歌」, 「八法逐日干支歌」, 「八法臨時干支歌」(F, I, J), 「玉龍賦」, 「蘭江賦」, 「雜病十一穴歌」, 「肘後歌」(G, J, L), 「逐日人神歌」(F, G, J), 「五子元建日時歌(五虎元日時歌, 五子元建歌・加天干於寅上)」(A, F, G), 「飛騰八法歌(八法飛騰穴十干八卦歌)」(F, G, I)
6. <2種>「玉龍歌」, 「回腸九針歌」, 「行針指要歌」, 「八法手訣歌」(G, J), 「針内障秘歌」, 「鍼内障要歌」(J, L), 「九部入神禁忌歌」(C, J), 「八穴配合歌」(F, J), 「八法五虎健元日時歌」(I, J), 「十二経本一脈歌」, 「奇経八脈周身交会歌」, 千金十一穴歌, 治病十一証歌(F, I)

今後は『十四経発揮』系統の歌賦も併せ、さらに整理・調査を進めていきたい。